

第 15 回大宮区区民会議 視察研修要旨

- 1 日 時 平成 28 年 10 月 20 日（木） 9 時 45 分～16 時 30 分
- 2 視察先 川越市中心部、川越市やまぶき会館
- 3 出席者 21 名

（委員） 16 名

花俣淳一会長、池上明彦副会長、横山千恵子副会長
井上恵美子委員、井原武志委員、鵜籠雅之委員、押田昌敏委員、黒澤昭徳委員、
齋藤泰雄委員、諏訪淳嗣委員、高田健委員、福嶋俊樹委員、星野美子委員、
村上隆子委員、山本英夫委員、若生和子委員

（事務局） 4 名

白石（コミュニティ課長）
池羽、土井、加藤（コミュニティ課）

（コンサルタント） 2 名

森、植田（（株）社会構想研究所）

4 行 程

（1） 班ごとによる川越市中心市街地（蔵造りの町並み中心）の視察

- ①JR 川越駅から、小江戸蔵里を通過して蔵造りの町並みへ向かうコース
- ②シルバーガイドによる案内で川越を巡るコース
- ③川越市立博物館・川越城本丸御殿、蔵造りの町並みコース
- ④川越氷川神社、川越まつり会館、蔵造りの町並みコース

（2） 川越市職員による説明及び質疑

川越視察の目的

川越は県内を代表する観光都市のひとつであり、その地域づくりについては、国内でも高い評価を得ている。地元の商店街等が中心となって戦略的に街の景観を形成して、それにより街の活性化や観光振興、街のブランドの確立といったことがなされている。

川越は大宮とは違う取り組みを行うとともに、異なった経験を積んでおり、そういった大宮とはまた違う経験から、大宮の魅力を区外の人に伝え、大宮にくり返し来たくなるしかけづくりを行うためのヒントが得られるのではないかと考え、川越への視察研修を行った。

5 視察内容

班ごとによる川越市中心市街地（蔵造りの町並み中心）の視察

川越市観光課等の職員による説明に先駆けて、4班に別れ川越市内を視察した。1班は JR 川越駅、他の3班はあぐれっしゅ川越にある郊外型駐車場からスタートして、蔵造りの町並みを中心に川越市の中心市街地を視察した。小江戸蔵里や川越城本丸御殿等を経由して、観光客の大半が訪れる蔵造りの町並みまで、街の中を回遊しつつ、川越市に訪れた人に対して川越の魅力をどのように伝えているのかという観点から、視察をおこなった。

川越市職員による説明及び質疑

川越市職員より、事前に送付した視察調査内容をもとに、川越市の取組みについて説明があった。主な内容は以下の通り。

観光課から、まず、川越市の観光振興について説明があった。

町並みの保存については、昭和 63 年に「まちづくり規範」というまちづくりの原則集が、住民の手で作られたことが大きい。これは、行政が定める規則や規制とは異なり、住民をはじめまちづくりに関わる様々な団体が創意工夫をもってまちづくりに参加し、いきいきとした町を形成することを目的として作られたものとなっている。川越市のまちづくりは、地元の住民から出てきた運動を行政が支援するという形で進んできた。

市のまちづくりの方針としては、建物の保存の他に、エリア内の回遊性を高めるため、区域を相互にネットワークして新たな交流人口を生む拠点施設となるように、市の施設を活用していきたい。

住民からの不満では、川越まつりでの露店の臭いや交通規制、また、市が旧市街にばかり投資しているという批判を受けることがある。

交通政策課から、観光のための交通整備として、自転車シェアリングや郊外型駐車場等についての説明があった。

交通社会実験については、北部市街地の交通問題の解消のため、平成 21 年に、一番街（県道）の平日一方通行、休日車両通行止を行い、市としては規制の導入について検討していた。しかし、地元から強い反対あり、規制導入には至っていない。市としても、北部市街地の交通問題については放っておくことはできないため、現在は地元の自治会と交通問題について意見交換を行っている。

都市計画課から旧川越織物市場の活用について説明があった。

次回第 16 回区民会議は、平成 28 年 11 月 24 日（木）、午後 2 時から区役所 1 階多目的室で開催予定。

(参 考)



▲ 川越駅観光案内所



▲ 小江戸蔵里



▲ 旧川越織物市場



▲ サイクルポート



▲ 蔵造りの街並み（一番街）



▲ 小江戸巡回バス



▲ 川越市観光課による説明



▲ 質疑応答